

縄文から弥生へ

はってん
発展 ①

縄文から弥生へ

今から一万年以上前から、およそ二千数百年前まで続いた時代を、縄文時代といいます。この時代の人々は、森で木の実を集めたり、けものをついたり、海や川で魚や貝をついたりして、食べ物を手に入れていました。縄目のもようをつけた、厚手の土器を使っていたことから、縄文時代とよばれています。

やがて、大陸から、米作りの技術が伝わりました。人々は、水田を開き、米を作るようになりました。食べ物を自然から集めるくらしから、自分たちで作り出すくらしへと、大きく変わったのです。この時代を、弥生時代といいます。弥生時代には、うすくて、かたい弥生土器が使われました。

米作りが広まると、人々は、水田の近くに集まって住み、むらができました。米はたくさん作ることができたので、むらの間に、ゆたかさのちがいが生まれました。そして、土地や水をめぐって、むらどうしの争いも起こるようになりました。

佐賀県の吉野ヶ里遺跡からは、まわりを深いほりやさくで囲んだ、弥生時代の大きなむらのあとが見つかっています。米作りによって、人々のくらしは安定しましたが、新しい問題も生まれたのです。

1 縄文時代の人々は、どのようにして食べ物を手に入れていましたか。

ア 米を作って

イ 木の実を集めたり、けものや魚をとったりして

ウ ほかの国から買って

2 「縄文時代」とよばれるのは、どうしてですか。

3 米作りが伝わって、くらしはどのように変わりましたか。

4 むらどうしの争いが起こるようになったのは、どうしてですか。

5 まわりをほりやさくで囲んだ、弥生時代のむらのあとが見つかった遺跡は何ですか。



遺跡